

楊 海景「中国の教育現状」

中国北京試験区理科“状元”（最優秀成績者）の李泰伯さんは最近、アメリカへ留学しようとハーバードを含む米名門11校への入学申請を行ったが、全校から拒否された。一方、中国で「問題児」と見なされた女子生徒がアメリカで「優等生」と評価されたという例がある。創造性を育てるアメリカの教育と、標準回答を要求し、暗記重視の中国の教育。今中国の教育の現状は中国の国内で話題になっている。

中国の教育現状は簡単に言えば、問題は何点が出てくると思う。

まずは人数が多い、人材が少ないということである。中国では人数が多いが、みんなの教育基準は社会基準に左右された。いい大学に入り、いい仕事が見つかるという価値観を持っている。その形式と結果を重視しすぎ、もともと重視すべきものを軽視されてしまった。だからこの社会基準により人材の仕組みのバランスを失った。

次に教育が商用化されたことが多い。今中国の景気がいいと言われている。みんなの知っているとおりの、中国は経済に投入は注目していたが教育の投入はみんなに軽視されていた。“211”プロジェクト以来、地方や民間で学校を建てることを励ます。しかし、ある人はこの名義を持ち上げて“貴族学校”を建てた。というのはお金を持っていないと学校に入れないことだ。< “211”プロジェクトは中国の大学から100あまりの大学を選抜し、21世紀に向けて中国の大学を発展させるために、研究費を投入し、各分野の研究を行うというものである。>。

まだ、高等院校が増やし、職校が軽視されている。主に応式教育、素質教育が形式化されてしまった。社会基準に左右され、みんなに認められるのは大学なので、職校の地位はなくなった。ということで中国では今技術を持っている技工は非常に不足である。まだ学校で学生にたくさん問題やらせて、解く方法を覚えなければいけない、いい成績を取れば良い、ほかは関係ないという意識も与えられている。このような教育方法は生徒たちの発散思惟や創造性などを拘束された。

最後は教育の不公平というこつである。中国では発展不足な地域で教育を受けられない子供もたくさんいる。“211”プロジェクトの名義を持ち上げての“貴族学校”はお金持ちではないと学校に入れないことだ。“貴族学校”はちょうど“211”プロジェクトのもともとの意図を違反した。

今の教育現状で中国の学生たちにどんな影響を与えるだろう。まずは自分の意識で行う能力が弱い。中学生や高校生は学校で大体4割の時間は授業を受け、5割は自習ということをする。自習というより宿題ばかりのほうが適切だと思う。先生の手を離れたら、生徒たちは何をすべきかが分からなくなってしまった。

次に、筆記試験しかできなくて、実践力がない。小学校から、生徒たちは先生が言うとおりの方法で問題を解く。先生が教えた方法を覚えれば、問題が解けるという意識が強い。

自分の力で道を探すという意識は全くなくて、実践できない生徒は少なくない。

また、問題について考えが単一という問題最近では明らかになった。長期間に先生の意見を受け入ればかりで、自分の想像力や発散思惟が拘束されてしまって、単一の考えは当然の結果だと思う。だから、成績がいくら優秀でも、アメリカの教育はこの成績に認めないことが出てきた。これは中国の教育とアメリカの教育の違っている点だと思う。

日々室内での勉強時間が長くて、生徒たちの体質が良くない。中国の学校は時間戦術と題海戦術をやっている。高校での勉強と休みの時間は大体朝7時から一時間を自習して、8時から授業が始まり、夜7時ぐらい授業が終わる。7時半からは晩自習である。夜11時にならないとこと日は終わられない。本当に辛かった。

まだ、中学校から生徒たちの室外活動の時間はあまりない、だから、もしインフルエンザが来たら、一教室で3割以上の人は絶対インフルエンザにかかってしまう。最近生徒が肥満という問題もでてきた。

中国の教育現状では生徒たちに与える影響は実は中国当代社会に与える影響と同じである。人材のバランスが失い、社会整体は新鮮な動力が不足、本当に技術を持っている人あるいは実践力を持っている人は少ないなどは重大な影響になるかもしれない。

参照サイト

大紀元

<http://www.epochtimes.jp/jp/2010/07/html/d42806.html>